

深海性甲殻類養成技術開発研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成16～18年度)

担当:水産試験場利用普及部

【研究の背景とねらい】

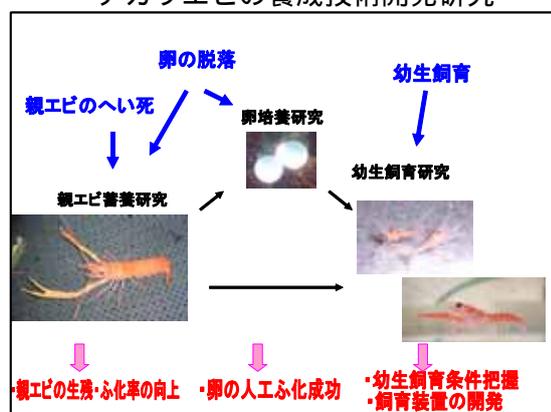
- タカアシガニ、アカザエビ等の深海性甲殻類は、高級食材として利用され人気があります。これら有用な深海性甲殻類は、本県特に駿河湾に多産し、日本においても世界においても静岡が深海性甲殻類の本家本元です。
- 近年その資源の減少が心配され、資源増大への期待が高まっています。さらに将来における養殖事業の起業有望種とみられ、養成技術開発研究が必要となっています。
- 深海性甲殻類を効率よく養成するために、清浄性・低温性という特徴を持つ深層水を利用して、以下の2課題にあたりました。

【研究成果】

タカアシガニの養成技術開発研究



アカザエビの養成技術開発研究



- <タカアシガニ養成技術開発研究> 深層水を利用することにより、養成親ガニの生残率向上と産卵率向上、幼生及び稚ガニの生残率が向上しました。
- <アカザエビ養成技術開発研究> 深層水を利用することにより、養成親エビの生残率向上とふ化率向上、卵の人工ふ化成功、幼生の飼育条件を解明しました。
- 深層水を利用して効率良く甲殻類を飼育する装置を開発しました。
- タカアシガニ、アカザエビ等の深海性甲殻類の飼育に深層水は有効で、深海性甲殻類の養成基礎技術は確立しました。深層水を利用した甲殻類の飼育方法・飼育装置関連技術について6件の特許を出願しました。
- 海洋深層水で深海性甲殻類を飼育、養殖、蓄養することにより生残率が向上し、さらに清浄な海洋深層水なので食品としての価値も上がると期待されます。
- 今後は、深海生物の生態解明や、資源の回復・増大を目指した放流種苗の効率的な生産、新規甲殻類養殖産業や活魚・鮮魚のストックとして利用、水族館等における展示用等、海洋深層水の利用方法に期待がもてます。
- さらに海洋深層水を利用した新規産業の創造・確立と静岡県や地域の活性化が期待されます。

【研究成果の普及方法】

- 講演、広報、学会等での公表による研究成果のピーアールと、海洋深層水を利用したタカアシガニ、アカザエビ等深海性甲殻類の飼育、養殖、蓄養の普及を推進します。
- ライセンス契約等の技術移転も視野に入れます。
- アカザエビについては、量産システム開発を主とした新規研究課題へステップアップします。

(作成 平成19年3月)